

# 「(改定)宇都宮市食料・農業・農村基本計画」の概要

## ◆序章 計画の改定にあたって

### 1 計画の目的と見直し

- (1) 目的
  - ・ 市民の良質で安全な食料の確保, 農業の持続的発展
  - ・ 農業に関する施策事業を総合的・計画的に推進するため
- (2) 見直しの必要性
  - ・ 平成16年3月の策定から5年が経過するため
  - ・ 国の農業政策動向や市町合併などの環境変化への対応
- 2 計画の位置付け
  - ・ 「第5次宇都宮市総合計画基本計画」の分野別計画
  - ・ 本市の農業部門における最も基本となる計画
- 3 計画の期間
  - ・ 平成21年度から平成25年度までの5年間

世界の農業を取り巻く環境変化や、本市の農業構造の特性等を踏まえ、

## ◆第1章 農業を取り巻く環境と展望

### 1 農業を取り巻く環境と中長期的な展望

- (1) 食料需給に関わる動向
 

世界的な穀物不足, WTO 農業交渉等による輸入外圧が高まっている。  
⇒ 「地域内食料自給率の向上」や「消費者の安心感の向上」等を考慮する必要がある(平成21年 国の食料・農業・農村基本計画改定のポイント)。
- (2) 農業生産基盤
 

担い手の高齢化により, 耕作が困難な農地が増加するとともに, 多面的機能や農村コミュニティが損なわれつつある。  
⇒ 中核的, 新規就農とともに, 組織的な担い手を確保する必要がある。
- (3) 農畜産物の流通・販売
 

流通経路や量販店の表示の仕組みから, 「うつのみや産」表示は不十分  
⇒ 地元を支える意識を高めるとともに, 入手を容易にする必要がある。
- (4) 食に関する意識とライフスタイル
 

食の外部化が進み, 地元の食材や家庭・地域への愛着が薄れつつある。  
⇒ 「食育」を充実し, 健康を守り, 地元への感謝の気持ちを育む必要がある。
- (5) 食の安全・安心
 

残留農薬や産地偽装問題などにより, 安全・安心への関心が高まっている。  
⇒ 生産履歴などの情報を, 皆が分かりやすく手軽に入手できる必要がある。

### 2 本市の農業構造と特性

- (1) 農家について
  - ・ 農家戸数, 従事者が減少傾向 (平成2年⇒平成17年:3割以上の減)
  - ・ 農業従事者が高齢化 (平成17年:65歳以上が全体の5割以上)
  - ・ 稲作単一経営が大半 (平成17年:全体の約7割)
  - ・ 農外所得が主の兼業農家が多い (平成17年:全体の6割以上)。
  - ・ 経営規模 3ha 未満の販売農家が大半 (平成17年:全体の約8割)
  - ・ 大規模, 高額販売農家が増加傾向  
(経営規模 10ヘクタール以上 平成7年:25戸⇒平成17年:62戸)  
(販売規模 1,000万円以上 平成2年:220戸⇒平成17年:359戸)
- (2) 農地について
  - ・ 経営耕地面積が減少傾向 (平成2年⇒平成17年:2割弱の減)
  - ・ 経営耕地の大半が水田 (平成17年:全体の8割以上)
- (3) 農畜産物について
  - ・ 農業算出額が減少傾向 (平成2年⇒平成18年:3割の減)
  - ・ 米が著しく減少 (平成2年⇒平成18年:4割以上の減, 全体の約4割)
  - ・ 最近横ばい傾向 (平成13年～平成18年:200億円程度で推移)
  - ・ 野菜, 畜産, 果実は増加傾向  
(野菜平成13年:44億4千万円⇒56億8千万円, 全体の約3割)

#### 【主な特徴】

- ・ 65歳以上の生産者によって, 過半数が支えられている。
- ・ 稲作農家の大半が単一経営であることから, 農業所得は米価下落の影響を受けやすい。
- ・ 米価下落の中にあつて, 野菜, 畜産, 果実により市全体の農業算出額が一定維持されている。

## ◆第2章 本市の農業振興の基本方向

### 1 重視すべき視点(基本理念～基本目標～将来像)

何も対策を講じなければ, 「食」の供給を通して, 「命」を守る産業の...

農業を続けることが困難に  
「食」の安定的な供給が困難に

市民の暮らしと命を守るためには,

農業の「持続性」の向上

食料の「自給力」の向上

そのためには...

に取り組まなければならない

#### 基本理念(あるべき状態)

農家(生産者)は, 農業に魅力を感じ, 意欲と責任を持って営農している

市民(消費者・事業者)は, 農業への理解を深め, 地元産を選び, 買い支えている

「基本理念」の実現には...

農業所得の向上

手に入れやすさの向上

生産力

販売力

地域力

「基本理念」の実現のために...

#### 基本目標(あるべき状態に近づくために)

I 「生産力」の向上: 多様な農畜産物を, 持続的に効率よく生産する「力」を高めます

目標値: 耕地利用率 約87% ⇒ 約96%(水田利用率101%)

II 「販売力」の向上: 地元農畜産物が市内外から選ばれ, 十分にいきわたる「力」を高めます

目標値: 「うつのみや産」表示を行う量販店数 35店舗(全52店舗中) ⇒ 全52店舗

III 「地域力」の向上: 皆が農業農村の大切さを理解し, 守り育てていく「力」を高めます

目標値: 「うつのみや産」農畜産物を積極的に選択する市民の割合 22% ⇒ 50%以上(非常に思う)

「3つの力」が全て高められた状態

#### 本市農業の目指すべき姿(将来像)

良いものづくり, しっかり届ける, みんなでささえる  
「農業王国うつのみや」

目標 今後5年間で, 平成25年度までに,

・ 本市の農業産出額 : 約197億5千万円(平成18年) ⇒ 約204億5千万円(+約3.5%)

・ 認定農業者の平均農業所得 : 約770万円 ⇒ 約800万円(+約4%)

本市農業は,

生産者が, 誇りと意欲を持って いきいきと農業を営み,  
消費者が, 豊富で新鮮な農畜産物を, 身近に手に入れられるとともに,  
豊かで美しい農村環境が守られ, 癒しや潤いに満ちています。

現行計画「実績評価」, 農業士との懇談会, 消費者アンケート等

### 2 本市農業の重点課題

- (1) 地域の状況や営農形態に応じた「担い手の確保・育成」
- (2) 効率的・安定的な生産を支える「生産基盤の確保と有効活用」
- (3) 明確な根拠に裏付けられた「農畜産物の安全性・安心感の向上」
- (4) 安全性・持続性を高める「環境保全・資源循環型農業の促進」
- (5) 生産者と消費者の距離を縮める「地産地消の強化」
- (6) 高品質で安定的な「ブランド力の高い農畜産物と産地づくり」
- (7) チャンスを生み, 皆のメリットを高める「農商工連携の強化」
- (8) 暮らしを守り命を育む「農業の大切さを理解し支える行動の促進」
- (9) 文化やコミュニティーの持続性を高める「農村生活環境の形成」

重点課題から「主体」ごとに農業振興のポイントを整理

### 3 本市の農業振興の「ポイント」

#### 【生産面】

1 土地利用型(稲作, 麦, 大豆等)農家へのアプローチ

(1) 「稲作大規模」経営志向の生産者へ

・ 経営規模の拡大

・ 経営の組織化・法人化

(2) 「稲作中規模」経営志向の生産者へ

・ 農地の有効利用・高度利用

・ 園芸農業との「経営の複合化」

2 園芸・畜産農家へのアプローチ

・ 低コスト化・省エネ化

・ 多品目生産・高付加価値化 など

#### 【販売・消費面】

1 流通・販売業者へのアプローチ

入手機会の充実・強化

2 消費者・事業者へのアプローチ

農業の理解促進(地元産の優先的選択, 環境保全) など

## ◆第5章 計画の推進にあたって

- 生産者の関わり
 

責任ある営農に基づき, 安全な農畜産物を安定的に供給し, 「食」を通して消費者の「命」を支える。
- 農業団体の関わり
 

生産者の支えになるとともに, 消費者・事業者の声にも耳を傾け, 双方のメリットを最大化する。
- 事業者の関わり
 

地元農畜産物を安全で適切に, 消費者に届け, また, 加工品や商品として積極的に活用するとともに, 農業農村の持続性の向上に寄与する。
- 消費者の関わり
 

生産者の取組を理解するとともに, 農村環境を守るために行動し, 地元農畜産物を積極的に選び買い支えるなど, 地域農業と地元生産者を守る。
- 市の関わり
 

全ての主体が, 各々の役割に応じた取組を積極的に行えるよう, ハード・ソフトの両面から, 適切かつ計画的に支援する。

# ◆ 第4章 分野別計画 「施策体系」:基本施策～単位施策～個別施策

将来像【指標設定】

基本目標【I, II, III指標設定】

